

## 令和3年度上期事業報告

令和3年度上期の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増しており、いわゆる「K字回復」といわれる業種による二極化がみられる状況にあります。

先行きについては、ワクチン接種の促進や海外経済の改善等により、持ち直しが期待されるが、新たなコロナウイルスの変異株の感染拡大による下振れリスクに注意する必要があります。

輸出入をみると、輸出は緩やかな増加が続いており、輸入はこのところ持ち直しの動きに足踏みがみられる状況です。

こうした中、本年度上期の当組合管轄の貨物取扱い実績は2,558,602トンで、前年度上期の2,382,728トンに比較して、175,874トンの増加で、107.4%の取扱いとなりました。

野積場の貨物構成では、木材の取扱いが25,868トンで、前年度上期比293.9%で大幅な増加となりました。鋼材は輸出入・内貨併せて40,059トンを取扱い前年度上期比160.2%となり、その他の一般貨物も輸出入・内貨併せて657,544トンの取扱いで前年度上期比113.4%となりました。

市原地区では、内貨スクラップ・鋳滓等を220,004トン取扱い前年度上期比208.3%と増加いたしました。北袖ヶ浦地区では内貨スクラップの取扱いが減少し前年度上期比70.6%となりました。

完成自動車は輸出入・国内車併せて114,543台を取扱いしました。輸入車は12,626台で前年度上期比140.9%、輸出車は0台でした。国内車は101,917台で前年度上期比107.3%と増加となりました。合計では前年度の105,019台から9,524台増加し、前年度上期比109.1%でした。

上屋・テント倉庫については、72,298トンを取扱い前年度上期比で17,107トン増加し131.0%となりました。

コンテナ貨物は、合計で30,688TEUを取扱い前年度上期の34,204TEUから3,516TEU減少し、前年度上期比89.7%となりました。